

展覧会事業

展覧会の方針

日本における写真・映像文化のセンター的役割を果たすと共に、国際的な交流の拠点となるべく、コレクションの活用と自主企画・誘致展を組み合わせながら、「質の高い写真・映像文化と出会う美術館」に相応しい展覧会を開催する。

○感動を与える

観覧者に感動を与えるとともに、専門家から一般の鑑賞者まで、満足度の高い展覧会を実施する。

○ミュージアム・コンプレックスの実現

写真美術館の3つの展示室及びホールを有効に組み合わせ、いつ誰がきても楽しめる展覧会のラインナップを提供する。

○全てが企画展

固定的な常設展示と異なり、収蔵品を有機的に結びつける収蔵企画展、または独自の切り口による自主企画展等を開催する。

◇収蔵展

世界でも有数の3万点以上の写真・映像コレクションを活用し、調査研究に基づいた館独自の視点で展覧会を企画した。珠玉の名作を順次紹介すると共に、展覧会をパッケージ化し、館発の他館への巡回展を行った。

① 写真コレクション展

より多くの作品をより多様なテーマで来館者に鑑賞していただくために、毎年違ったテーマを立てて収蔵品で構成するコレクション展。今年度は大規模改修により平成26年9月24日から休館したため、例年のように三部構成ではなく、「スピリチュアル・ワールド」展と題して、日本の宗教文化や民間信仰と視覚表現の接点を探る展覧会を開催した。

② 調査研究に基づく独自のテーマの展覧会

初期写真師を代表する下岡蓮杖の初の回顧展「没後百年 日本写真の開拓者 下岡蓮杖」展を開催した。図録の代わりとして国書刊行会から同名写真集を一般書籍として出版した。この展覧会は静岡県立美術館(平成26年6月10日(火)～7月21日(月・祝))に巡回した。

また、残された原板に遡って調査研究を行った成果として、「岡村昭彦の写真 生きること死ぬことすべて」展を開催した。図録の代わりとして美術出版社から同名作品集を一般書籍として出版した。

③ 映像展

平成25年度映像展「高谷史郎 明るい部屋」展で高谷史郎氏が平成26年度(第65回)芸術選奨文部科学大臣賞を受賞した。

◇自主企画展

支援会費を中心とした自主財源を効果的に用い、多様な切り口で、話題性のある展覧会を、国際動向もふまえて実施した。また、国内外の美術館等と共同企画し、他館への巡回展を実施した。

① 新規重点作家の個展

美術館の新規重点作家であり、光・時間・空間・身体をテーマに長年活動を続けている佐藤時啓の個展「佐藤時啓 光一呼吸 そこにいる、そこにはいない」展を開催した。この展覧会で佐藤時啓氏は平成26年度(第65回)芸術選奨文部科学大臣賞及び第31回写真の町東川賞国内作家賞を受賞した。

平成25年度自主企画展「米田知子 暗なきところで逢えれば」展が姫路市立美術館で平成26年9月13日(土)～11月3日(月・祝)まで開催された。

② 調査研究に基づく独自のテーマの展覧会

大正から昭和初期にかけて活躍し、初期日本山岳写真史にその名を刻む冠松次郎と穂苅三寿雄の偉業を検証する「黒部と槍 冠松次郎と穂苅三寿雄」展を開催した。

③ 国際展

国際的に今最も注目を浴びる作家の一人、フィオナ・タンの個展「フィオナ・タン まなざしの詩学」展を国立国際美術館(平成26年12月20日(土)～平成27年3月22日(日))と共同企画して開催した。図録の代わりとして美術出版社から同名作品集を一般書籍として出版した。

④ 恵比寿映像祭

「東京文化発信プロジェクト」の基幹事業である恵比寿映像祭。第7回目となる今年は「惑星で会いましょう」を総合テーマに、恵比寿ガーデンプレイスや近隣施設などを会場に、美術館を飛び出して地域と連携しながら、展示、上映、屋外展示、シンポジウム、レクチャー、ライブ・イベント、地域連携プログラムなど、多彩なプログラムを実現した。

◇誘致展

写真月間との共催や、写真団体や企業、新聞社と協力し、外部企画・資金を導入して、展覧会にヴァリエーションをもたらした。

展覧会事業
収蔵展

没後百年 日本写真の開拓者 下岡蓮杖
A retrospective on Shimooka Renjō
100 years after his death

期 間 平成26年3月4日(火)～5月6日(火・休)
33日間(平成26年4月1日以降の開館日数)
主 催 東京都 東京都写真美術館／読売新聞／
美術館連絡協議会
協 賛 ライオン／清水建設／大日本印刷／損保ジャパン／
日本テレビ放送網
協 力 下田市商工会議所
出品作品数 280点
巡 回 静岡県立美術館
(平成26年6月10日(火)～7月21日(月・祝))

日本の初期写真史において最も重要な写真師の一人である下岡蓮杖(1823-1914)が制作した写真作品、日本画作品を中心に展覧し、日本写真文化の礎を築いた蓮杖の足跡をたどる大回顧展。本展は、その長命な生涯について、最も体系的に記された口述筆記『写真事歴』(山口オ一朗筆記、1894年、写真新報社)を軸に下岡蓮杖の生涯を実作品の展示によってひもとく、日本初の試みとなった。



平成26年度 東京都写真美術館コレクション展
スピリチュアル・ワールド
Collection Exhibition 2014
The Spiritual World

期 間 平成26年5月13日(火)～7月13日(日)
54日間
主 催 東京都 東京都写真美術館
協 賛 凸版印刷株式会社
出品作品数 183点

当館の豊富なコレクションのなかからセレクトした写真作品と映像作品・資料によって、日本の宗教文化や民間信仰と視覚表現の接点をさぐるとともに、スピリチュアルな世界観を背景に独自のヴィジョンを追求してきた写真家／アーティストたちの作品表現を紹介した。

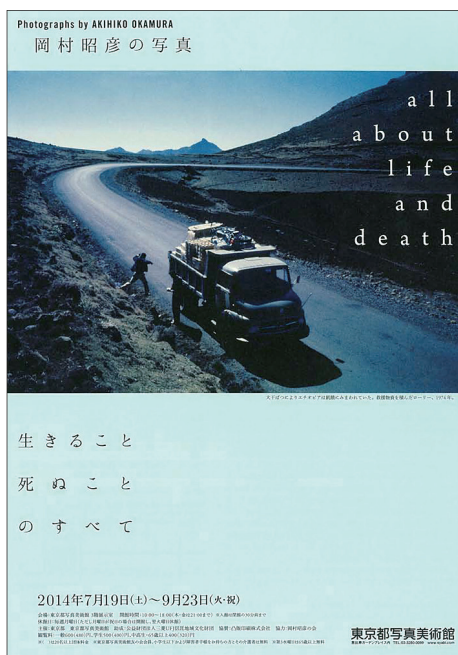


岡村昭彦の写真
 生きること死ぬことのすべて
 Photographs of AKIHIKO OKAMURA
 all about life and death

期 間 平成26年7月19日(土)～9月23日(火・祝)
 57日間
 主 催 東京都 東京都写真美術館
 助 成 公益財団法人三菱UFJ信託地域文化財団
 協 賛 凸版印刷株式会社
 協 力 岡村昭彦の会
 出品作品数 182点

岡村昭彦（1929～85）は、1964年6月12日号の『ライフ』に9ページにわたり掲載されたベトナム戦争の写真によってフォトジャーナリストとして国際的にデビューを果たし、「キャパを継ぐ男」として一躍注目された。

本展では、残された原板に遡って調査研究された成果をもとに、未発表の写真を中心に新たにプリントを作り展示構成。「フォトジャーナリスト」という言葉ではくくることができない、岡村昭彦の思想と感情の軌跡が掘り起こされ、人間がカメラのレンズを通して、世界をどのように認識したかがあざやかに浮かび上がってきた。



展覧会事業
自主企画展

～黒部と槍～ 冠松次郎と穂苅三寿雄
Valleys and Peaks : Kanmuri Matsujiro and Hokari Misuo

期 間 平成26年3月4日(火)～5月6日(火・休)
33日間 (平成26年4月1日以降の開館日数)

主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
読売新聞社/美術館連絡協議会

後 援 公益社団法人日本山岳会/黒部市/松本市

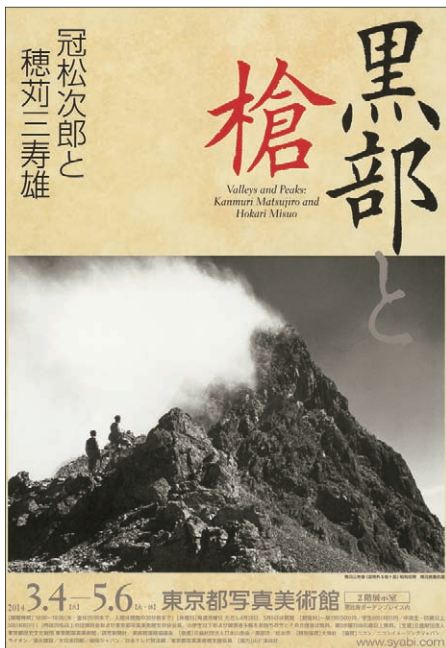
特別協賛 大伸社

協 賛 ニコン/ニコンイメージングジャパン/ライオン/
清水建設/大日本印刷/損保ジャパン/日本テレビ
放送網/東京都写真美術館支援会員

協 力 山と溪谷社

出品作品数 134点

戦前のわが国の登山史上もっとも著名な登山家の一人であり、黒部渓谷の地域探査や山岳紀行文で知られる冠松次郎(1883-1970)と、北アルプスで最初期に山小屋経営を行い、山岳写真や槍ヶ岳を開山した播隆上人の研究でも知られる穂苅三寿雄(1891-1966)。ともに、日本における山岳写真のパイオニアと呼ばれた彼らの写真には、今も変わらない厳しい山の姿を見ることができ、また一方で、現代では見ることでできない失われた自然も多く写されている。多くの人びとを魅了してきた「黒部渓谷」と「北アルプス・槍ヶ岳」。本展覧会では、日本が世界に誇るこれらの美しい自然をテーマに、現存するオリジナル・プリントと多彩な資料で、初期日本山岳写真史にその名を刻む二人の偉業を検証した。



佐藤時啓 光一呼吸
そこにいる、そこにはない

Sato Tokihiro
Presence or Absence

期 間 平成26年5月13日(火)～7月13日(日)
54日間

主 催 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
読売新聞社/美術館連絡協議会

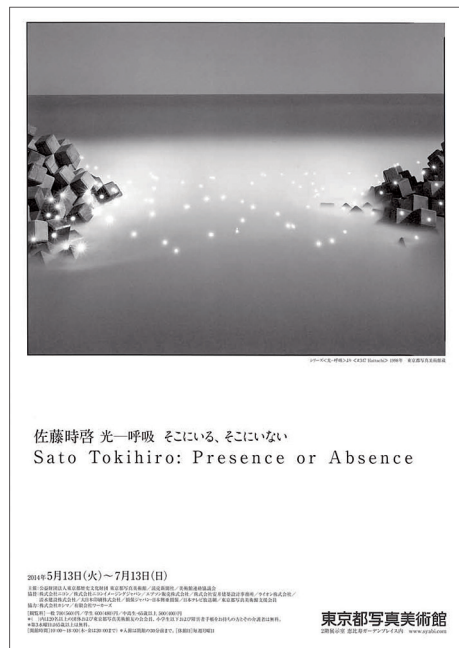
助 成 芸術文化振興基金

協 賛 株式会社ニコン/
株式会社ニコンイメージングジャパン/
エプソン販売株式会社/
株式会社安井建築設計事務所/ライオン株式会社/
清水建設株式会社/大日本印刷株式会社/
損保ジャパン・日本興亜損保/日本テレビ放送網/
東京都写真美術館支援会員

協 力 株式会社カシマ/有限会社ワークーズ

出品作品数 99点

光・時間・空間・身体などをテーマに、ピンホール・カメラやカメラ・オブスキラ、長時間露光などを駆使して独創的な写真表現に取り組む佐藤時啓の個展。代表作の<光一呼吸><Polaroid Works><Gleaning Lights><Wandering Camera>に加え、本展のために制作した新作を含め、デジタル・プリントを中心に全99点を展示。光が小さな穴を通じて像を結ぶという基本的な原理への興味や驚きを出発点に展開してきた佐藤の表現を通して、写真というメディアの本質と可能性を考察した。



フィオナ・タン まなざしの詩学

Fiona Tan
Terminology

- 期 間** 平成26年7月19日(土)～9月23日(火・祝)
57日間
- 主 催** 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
館／朝日新聞社
- 後 援** オランダ王国大使館
- 協 賛** 株式会社資生堂／東京都写真美術館支援会員
- 出品作品数** 10点
- 巡 回** 国立国際美術館（平成26年12月20日(土)～平成
27年3月22日(日)）

国際的に活躍する映像アーティスト、フィオナ・タンのミッドキャリアを概観する個展。大きな注目を集めた2009年ヴェネチア・ビエンナーレ オランダ館出品作や、その後の作家の新たな展開を含めた新旧の代表作10点を通じて、写真と映像の本質に迫る問いを詩的かつ批評的に投げかけるフィオナ・タンの世界を紹介した。同時に、美術における映像展示の多様な在り方や用いられる技術の変遷についても、示唆に富んだ展示となった。映画館を常設する美術館としての利点を生かし、出品作品のうち作家による初期ドキュメンタリー作品2本は、1階ホールにて会期を通じてスクリーン上映した。また、公式図録を、フィオナ・タンをめぐる「用語集 (ターミノロジー)」という体裁で編集することで、企画コンセプトを補完するとともに、フィオナ・タンの作品に通底する主題や美学をわかりやすく、かつ横断的に提示した。



第7回恵比寿映像祭「惑星で会いましょう」

Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2015: See You on the Planet

期 間 平成27年2月27日(金)～3月8日(日) 10日間
主 催 東京都／東京都写真美術館・東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)／日本経済新聞社
共 催 サッポロ不動産開発株式会社／公益財団法人日仏会館
後 援 アメリカ大使館／フィンランド大使館／J-WAVE 81.3FM
協 賛 サッポロビール株式会社／東京都写真美術館支援会員
寄 付 富士重工業株式会社
協 力 ブラジル大使館／N E C ディスプレイソリューションズ株式会社／株式会社レイ／Kyoto D U／びあ株式会社／株式会社北山創造研究所／株式会社トリプルセブン・インタラクティブ／株式会社ロボット
出品作品数 展示作品：28点／上映作品：32点／オフサイト作品：3点／パフォーマンス、ライブ作品：5点(計68作品)
 ※地域連携プログラムのぞく

第7回恵比寿映像祭は、「惑星で会いましょう」を総合テーマに、映像をとおして、複層化する世界に向き合うことをコンセプトとした。また、東京都写真美術館の改修休館にとまない、さらに地域とのつながりを深めながら、恵比寿近隣の外部会場で開催した。25カ国の国と地域より66名の作家およびゲストの出品・参加を受け、恵比寿ガーデンプレイス内のザ・ガーデンホールおよびルーム、センター広場や日仏会館、地域連携各所などの複合会場で、展示、上映、イベント、シンポジウム、レクチャーなど多彩なプログラムを展開した。

【展示】(ザ・ガーデンホール)

展示 | パヴェウ・アルトハメル／久野ギル／ダンカン・キャンベル／山口典子／堀尾寛太／ジョナサン・ミナード&ジェームズ・ジョージ／佐々木友輔／スズキユウリ／鈴木光／かわなかのぶひろ／中谷芙二子／和田守弘／瀬田なつき
 スクリーン展示 | ライアン・トラカートゥン／ジョルジュ・メリエス／デイヴ・フライシャー／ニコラ・プロヴォスト／アレックス・ハーバード／谷口暁彦／榊原澄人
 ホールライブ | ①Radiologic - 久野ギル with ゲスト・ミキサーKEN ISHII②《クラウド》プレゼンテーション③KEITAI GIRL インセプション④堀尾寛太ライブ
 ラウンジトーク | (ザ・ガーデンホール)
 鈴木光／佐々木友輔／山口典子／クララ・イアンニ／瀬田なつき／ダンカン・キャンベル／地域連携プログラム：伊東建築塾～石山友美、太田佳代子

【展示】(日仏会館ホールおよびギャラリー)

展示 | クララ・イアンニ／ホンマタカシ [関連トーク及びイベント]
 ドキュメンタリーの映し方をめぐって(ゲスト：ホンマタカシ×諏訪敦彦)／コンタクトゴonz×「最初にカケスがやってくる」(パフォーマンス：コンタクトゴonz)

【上映】(日仏会館ホール)

上映プログラム | ①ケン・ジェイコブス—知覚のアドベンチャー②あたらしい過去—ダンカン・キャンベル③エリオ・オイチシーカ—マージナルな英雄④共鳴する視線—ブラジル実験映画⑤三宅唱《無言日記/201466》—どこの誰のものでもない映画⑥8ミリカメラと歩く場所—栗原みえ⑦光の新機軸—日本若手作家特集⑧フィンランド・ヴィデオアートの現在形：AV-arkkiより⑨⑩インディペンデント・インドネシア映画：エドウィン特集(プログラマー：メイスク・タウリシア)

【シンポジウム】(日仏会館ホール) ※日仏会館共催企画

映像と着色—記憶のタイムマシーン(パネリスト：岩田真治／ルイ・ヴォードヴィル／吉見俊哉、司会：池村俊郎)

※【オフサイト展示】(センター広場ほか計7カ所)

【イベント】(ザ・ガーデンルーム)

スペシャル上映 | ①爆音SF [35mm]《宇宙人東京に現わる》(ゲスト：田中重幸／岩佐陽一) ②爆音SF [35mm]《ダークスター》(ゲスト：樋口泰人／篠崎誠) ③爆音SF [35mm]《AKIRA》

ラウンドテーブル | ④Yebizo ラウンドテーブル：『ホール・アース・カタログ』をめぐって 第1章 WECとは何なのか(ゲスト：室謙二／赤田祐一) 第2章 WECとメディアテクノロジー(ゲスト：ジョナサン・ミナード&ジェームズ・ジョージ) 第3章 パネル・ディスカッション⑤Yebizo ラウンドテーブル：メディアアートとしてのハッキングのこれから(ゲスト：真鍋大度／石橋素／福原志保／徳井直生)

【地域連携プログラム】(地域連携各所)

公益財団法人日仏会館／NADiff a/p/a/r/t/MEM/G/P gallery／TRAUMARIS/POST/amu/waitingroom/NPO法人アーツインシアティヴトウキョウ [AIT/エイト]／伊東建築塾/MA2Gallery/Gallery工房親/MuCuL

※本事業は、東京文化発信プロジェクト事業の一環として開催した。



展覧会事業
誘致展

101年目のロバート・キャパ
—誰もがボブに憧れた
Robert Capa, the 101st Year:
They All Adored Bob

期 間 平成26年3月22日(土)～
5月11日(日)
37日間(平成26年4月1日以降の
開館日数)

主 催 朝日新聞社
共 催 東京都写真美術館

企画協力 東京富士美術館
特別協力 マグナム・フォト東京支社

後 援 在日フランス大使館/
アンスティチュ・フランセ日本/
ハンガリー大使館

協 賛 野崎印刷紙業

「ボブ」の愛称でも親しまれたロバート・キャパ(1913-54)は、戦争写真家として知られているが、本展では東京富士美術館の所蔵作品を核に、戦場以外でキャパが同時代に生きる人々への共感や友人たちへの思いから撮影した作品を多数紹介。キャパ生誕から101年目にあたり、これからの新たな100年に向けて「プラスワン」をコンセプトに掲げ、キャパの真骨頂ともいえるユーモアや生きる喜びが表れた知られざる作品を中心に、等身大のキャパを紹介するこれまでない機会となった。



日本写真家協会展
第39回写真公募展
2014 THE 39th EXHIBITION OF THE JPS

期 間 平成26年5月17日(土)～6月1
日(日) 14日間

主 催 公益社団法人日本写真家協会
共 催 東京都写真美術館
後 援 文化庁/東京都

1976年に写真文化の振興を目的に、写真愛好家を対象として始まったフォトコンテストの受賞・入選作品展で、今年で39回を迎える。文部科学大臣賞に高田泰子の「本番前(95才)」、東京都知事賞に中澤仁の「往く夏」、金賞に川畑嘉文の「シリア難民の子どもたち」、銀賞に加藤泰子の「空中遊泳」、藤井のぼるの「瀬戸内沿岸2013」、銅賞に金森光紀の「ビッグマウス」、保屋野厚の「竜巻被害」、木村正司の「春夏秋冬」が選ばれた。



世界報道写真展2014 WORLD PRESS PHOTO 2014

期 間 平成26年6月7日(土)～8月3日(日) 50日間
主 催 世界報道写真財団／朝日新聞社
共 催 東京都写真美術館
後 援 オランダ王国大使館／公益社団法人日本写真協会／公益社団法人日本写真家協会
協 賛 キヤノンマーケティングジャパン株式会社

毎年恒例の世界報道写真展。前年に世界中で撮影、報道された写真を対象にした世界報道写真コンテストが毎年、オランダのアムステルダムで開催され、今年は132の国と地域から5,754人の写真家が応募。98,671点から選ばれた計53人の写真家の作品を展示した。大賞はジブチ共和国で出稼ぎ労働者の姿を写したジョン・スタンマイヤー（アメリカ）の作品。「一般ニュース」の部では、フィリピンのサイクロンの惨禍を示す作品が受賞した。クリスチャン・ツィーグラ（ドイツ）は人間に最も近い動物と言われているボノボの生態に迫る写真を撮影し、受賞するなど、社会問題からスポーツや自然、ポートレートまで幅広い分野の写真を紹介。本展は世界45の国と地域、約100会場で開催され、約200万人の来場者を集めた。



「原点を、永遠に。」清里フォト アートミュージアム(K*MoPA) 開館20周年記念

世界の若い写真家の情熱を未来に伝える “ヤング・ポートフォリオ”20年の軌跡

Basically. Forever : Commemorating the 20th Anniversary of the Kiyosato Museum of Photographic Arts (K*MoPA)

期 間 平成26年8月9日(土)～8月24日(日) 14日間
主 催 清里フォトアートミュージアム
共 催 東京都写真美術館

1995年の開館以来、“写真を通じて世界の若者を育てる文化貢献活動＝ヤング・ポートフォリオ”に力を注ぐ清里フォトアートミュージアム〈K・MoPA〉。日本初にして世界で唯一といえる取り組みは、国内外で高い評価を得ている。本展は、K・MoPAが20年間にわたって収蔵してきた44カ国、698人、5,296点の中から選りすぐった作品に、歴代選考委員の青年期の作品35点を加えた約500点の写真作品を公開。ヤング・ポートフォリオの軌跡を振りかえった。



写真新世紀東京展2014 New Cosmos of Photography Tokyo Exhibition 2014

期 間 平成26年8月30日(土)～9月21日(日) 20日間
主 催 キヤノン株式会社
共 催 東京都写真美術館

キヤノン株式会社は、写真表現の可能性に挑戦する新しい写真家の発掘を目的に1991年から公募展「写真新世紀」を行っている。本展では応募人数1,114人のなかから選ばれた優秀受賞者5名、佳作受賞者19名の受賞作品を展示した。また同時に前年度グランプリに選ばれた鈴木育郎氏による新作作品展を開催した。関連イベントとして9月12日(金)には1階ホールにて「公開審査会」(審査員: 大森克己(写真家)、佐内正史(写真家)、榎木野衣(美術批評家)、清水稜(写真評論家)、HIROMIX(写真家)(敬称略))を開催した。



教育普及事業 スクールプログラム

児童・生徒が写真・映像メディアとの出会いを通して、豊かな体験学習ができるように、小学校、中学校、高等学校、大学および専修学校・各種学校の授業や活動と連携した「スクールプログラム」を実施している。平成26年度の前半期は通常通り来館した学校団体に対して事業を実施し、改修工事のため休館した10月以降は、学校訪問によるプログラムを実施した。

実施回数： 43回

参加者数： 939人

●スクールプログラム内容

1 現像体験—フォトグラム

フォトグラムは、カメラを使わずに、さまざまな物体の影や形を白黒写真の印画紙に写しとる技法。布や紙、ガラス、プラスチックなど身の回りの日用品を素材として、平面上にならべたものを直接印画紙に感光させ、現像する。写真の現像を簡単に体験できるとともに、写真ならではの光と影による表現をもちいて、自由な造形活動をおこなうことができる。

対象学年：小学3年生以上/中学生・高校生

人数：5人～30人程度まで(応相談)

所要時間：120分程度

2 現像体験—デジタルカメラの画像から白黒写真をプリントする(モノクロ銀塩プリント)

児童・生徒がデジタルカメラで撮影した写真画像をもとに、当館があらかじめインクジェットプリントによってデジタルネガシートを作成。そのネガシートを用いて、暗室にて昔ながらのモノクロ銀塩プリントを手作り体験する。学校側での事前準備として、デジタルカメラでの写真撮影、簡単な画像データ編集等の用意を必要とする。

対象学年：小学5年生以上/中学生・高校生

人数：5人～12人まで(応相談)

所要時間：120分程度

3 手作りアニメーション体験—おどろき盤

「おどろき盤」は19世紀を起源とする原始的なアニメーション装置。円盤状の用紙に12コマの絵や図形を描き、回転させて見ることによって、手作りアニメーションを作ることができ、アニメーションの仕組みを体験的に知ることができる。完成したおどろき盤をコマ撮り撮影することによって、オリジナルのムービー作品も制作できる。

対象学年：小学3年生以上/中学生・高校生

人数：5人～40人程度まで(応相談)

所要時間：60分～90分程度

4 手作りアニメーション体験—コマ撮りアニメーション制作

さまざまな素材を用いて卓上でアニメーション作品をグループ制作。通常4～5人が1グループとなり、10秒～20秒程度のムービーを作る。動かないものに命をあたえるアニメーションの魅力を経験する。撮影にはコンピュータと専用のPCソフトを使用。学校側の事前準備としてストーリーづくり、撮影モチーフの制作などを必要とする。

対象学年：小学校4年生以上/中学生・高校生

人数：20人程度まで(応相談)

所要時間：120分程度

5 青写真—太陽の光で影を写しとる

青写真(サイアナタイプ)の技法をつかって、ものの影や、プラスチックやガラス、布など透過性のある素材でできた日用品をモチーフにしてさまざまなものの形を、手作りの印画紙に写し取る。青写真は太陽の光によって印画できる写真技法で、その名のとおり深い青色を特徴とする。

対象学年：小学校1年生以上/中学生・高校生

人数：5～20人程度まで(応相談)

所要時間：90分程度

6 作品鑑賞—対話しながら作品を見てみよう

写真美術館の展覧会を、じっくり見て自由に思ったことを対話しながら鑑賞を深める活動。美術館でしか出会えない本物の作品にふれ、豊かな鑑賞体験ができるとともに、感じたことを言葉にすることで充実した言語活動が体験できる。

対象学年：小学生・中学生・高校生

人数：30人程度まで(応相談)

所要時間：15～30分程度

平成26年度 スクールプログラム実績

	年月日	時間	団体名	学年	授業区分	人数	プログラム
1	4月18日	金 10:00-12:00	岩手県奥州市立東水沢中学校	3年生	修学旅行	6	現像体験 (フォトグラム)、展覧会自由鑑賞
2	5月14日	水 10:00-12:00	宮城県登米市立中田中学校	2年生	修学旅行	6	青写真、展覧会自由鑑賞
3	5月16日	金 10:00-12:00	宮城県遠田郡美里町立小牛田中学校	3年生	修学旅行	29	驚き盤、作品鑑賞プログラム「スピリチュアル・ワールド」展、「佐藤時啓」展
4	5月23日	金 10:00-12:00	淑徳与野高校	高校生	写真部	12	現像体験 (モノクロ銀塩プリント)
5	5月27日	火 13:30-15:00	日本大学芸術学部	大学生	学芸員課程	25	概要説明、展覧会自由鑑賞
6	5月30日	金 13:30-15:00	日本大学芸術学部	大学生	学芸員課程	25	概要説明、展覧会自由鑑賞
7	5月30日	金 13:30-15:30	山口県立大学	大学生	見学旅行	8	展覧会解説、バックヤード見学
8	6月 3日	火 13:00-16:00	愛知県東海市立名和中学校	3年生	修学旅行	8	驚き盤、作品鑑賞プログラム「スピリチュアル・ワールド」展
9	6月12日	木 13:30-16:00	愛知県豊橋市立本郷中学校	3年生	修学旅行	5	現像体験 (フォトグラム)、展覧会自由鑑賞
10	6月18日	水 10:00-11:30	港区立筈小学校	5年生	図画工作	57	「佐藤時啓」展アーティストトーク、暗室体験
11	6月20日	金 10:00-12:00	港区立御田小学校	4年生	図画工作	60	現像体験 (フォトグラム)、作品鑑賞プログラム「スピリチュアル・ワールド」展、「佐藤時啓」展
12	7月 3日	木 13:45-15:00	聖心女子学院高等科	3年生	選択社会	8	作品鑑賞プログラム「世界報道写真」展
13	7月 4日	金 9:00-12:30	渋谷区立加計塚小学校	5年生	図画工作	64	現像体験 (フォトグラム)、作品鑑賞プログラム「佐藤時啓」展
14	7月 8日	火 10:00-12:00	杉並区立井草中学校	2年生	総合学習	5	青写真、展覧会自由鑑賞
15	7月 9日	水 14:00-16:00	筑波大学付属駒場中学校	3年生	美術	4	現像体験 (フォトグラム)、展覧会自由鑑賞
16	7月15日	火 10:00-15:00	明治学院高校	高校生	写真部	19	現像体験 (モノクロ銀塩プリント)、展覧会自由鑑賞
17	7月17日	木 13:00-15:00	渋谷区立広尾小学校	6年生	図画工作	32	現像体験 (フォトグラム)、展覧会自由鑑賞
18	7月18日	金 10:00-12:00	東京女子学院高校	1年生	総合学習	22	作品鑑賞プログラム「世界報道写真」展
19	7月23日	水 14:00-17:00	ティーチャーズプログラム	小中高教員	教員研修	23	青写真、コマ撮りアニメーション、作品鑑賞プログラム (収蔵品スライド)
20	7月24日	木 10:00-12:00	足立区立青井中学校	中学生	美術部	15	現像体験 (フォトグラム)、展覧会自由鑑賞
21	7月29日	火 10:00-12:00	狛江市立狛江第二中学校	中学生	美術部、マンガ創作部	25	現像体験 (フォトグラム)、作品鑑賞プログラム (収蔵品スライド)
22	7月29日	火 12:45-15:30	キッズベースキャンプ大倉山	小学生	民間学童	8	コマ撮りアニメーション、展覧会自由鑑賞
23	7月30日	水 10:00-11:30	都立永福学園 (特別支援学校)	高校生	美術部	15	驚き盤
24	7月30日	水 12:45-15:30	キッズベースキャンプたまプラーザテラス	小学生	民間学童	16	現像体験 (フォトグラム)、作品鑑賞プログラム (収蔵品スライド)
25	7月31日	木 10:00-12:00	杉並区立和田中学校	中学生	美術部	6	現像体験 (モノクロ銀塩プリント、フォトグラム)
26	8月 2日	土 10:00-12:00	立教大学大学院	大学院生	授業等	2	概要説明、展覧会自由鑑賞
27	8月21日	木 10:00-12:00	青山学院大学	大学生	授業等	3	概要説明、展覧会自由鑑賞
28	8月22日	金 10:00-12:00	港区図工部会	小学校教員	教員研修	12	コマ撮りアニメーション、ディスカッション
29	8月26日	火 10:00-12:00	北区立桐ヶ丘中学校	中学生	美術部	16	現像体験 (フォトグラム)、展覧会自由鑑賞
30	8月26日	火 13:00-15:30	せたがやウキウキクラブ	小中学生	NPO法人	11	現像体験 (フォトグラム)、展覧会自由鑑賞
31	8月27日	水 12:45-15:30	キッズベースキャンプ五反田・大崎	小学生	民間学童	14	現像体験 (フォトグラム)、作品鑑賞プログラム (収蔵品スライド)
32	8月28日	木 19:00-20:00	日本写真芸術専門学校	学生	授業等	20	展覧会解説
33	8月28日	木 14:00-16:00	カリタス女子短期大学	短大生	授業等	12	展覧会解説
34	9月17日	水 10:00-12:00	渋谷区立神宮前小学校	5年生	図画工作	26	現像体験 (フォトグラム)、展覧会自由鑑賞
35	9月17日	水 13:00-15:00	ブリティッシュスクール・イン・トーキョー	中学生	授業等	11	現像体験 (モノクロ銀塩プリント、フォトグラム)
36	9月18日	木 12:30-14:30	江戸川区立第三松江小学校	4年生	図画工作	84	驚き盤、作品鑑賞プログラム「写真新世紀展」、展覧会自由鑑賞
37	9月20日	土 10:30-12:00	首都大学東京	大学生	授業等	10	概要説明、展覧会自由鑑賞
38	11月10日	月 10:50-15:20	港区立港陽小学校	6年生	図画工作	40	コマ撮りアニメーション (学校訪問)
39	11月25日	火 13:40-15:15	渋谷区立加計塚小学校	4年2組	図画工作	31	コマ撮りアニメーション (学校訪問)
40	11月28日	金 13:40-15:15	渋谷区立加計塚小学校	4年1組	図画工作	30	コマ撮りアニメーション (学校訪問)
41	1月27日	火 10:45-12:20	渋谷区立加計塚小学校	3年1組	図画工作	29	驚き盤 (学校訪問)
42	1月29日	木 13:40-15:15	渋谷区立加計塚小学校	3年2組	図画工作	28	驚き盤 (学校訪問)
43	2月16日	月 10:35-12:10	港区立御田小学校	5年生	図画工作	57	驚き盤 (学校訪問)

普及事業
ワークショップ等

東京都写真美術館は、写真と映像の二つの専門分野に関する総合美術館として、広く都民一般を対象に、入門的または専門的な関心を深めるためのワークショップを開館以来実施している。人々が写真、または新旧の映像メディアについて幅広く体験的に学ぶ機会を提供することで、当館が生涯学習の場として機能することを目指している。

ワークショップ

平成26年度は秋からの工事休館にともない、前半期間に集中して開催した。

テーマ	講師	開催日	参加人数	参加費
デジタルデータでプリントする鶏卵紙制作ワークショップ	当館スタッフ	平成26年4月19日(土) 平成26年4月20日(日)	47人	一般5,000円 学生3,500円
佐藤時啓展関連ワークショップ： 段ボールカメラで写真をうつそう	佐藤時啓(美術家、写真家)	平成26年5月31日(土) 平成26年6月1日(日)	28人	一般3,000円 学生(高校生以上)2,000円 小中学生1,500円
モノクロ銀塩プリントワークショップ (銀塩ネガフィルム方式)	当館スタッフ	平成26年6月21日(土)	14人	一般4,000円 学生3,000円
モノクロ銀塩プリントワークショップ (ハイブリッド方式) 協力：キヤノン株式会社	当館スタッフ	平成26年6月22日(日)	14人	一般5,000円 学生4,000円
フォトドキュメンタリー・ワークショップ 2014	Q.サカマキ(写真家)・ 外山俊樹(『アエラ』フォトエディター)	平成26年7月19日(土)～ 7月21日(月・祝)	18人	一般20,000円
クイック・ヒット・エッセイの一般公開レヴュー	Q.サカマキ(写真家)・ 外山俊樹(『アエラ』フォトエディター)	平成26年7月21日(月・祝)	50人	無料 (世界報道写真展の半券提示)
夏休みワークショップ： 手作りの家族写真／暗室でのモノクロ現像に 挑戦！	当館スタッフ	平成26年7月26日(土) 平成26年7月27日(日)	47人	小中学生1,000円
夏休みワークショップ： 自分を撮って、動かして、コマ撮りアニメー ションの中に入れてみよう！	横田将士(映像作家)	平成26年8月23日(土) 平成26年8月24日(日)	22人	小中学生1,500円
友の会会員限定：大人のための暗室体験 フォトグラムワークショップ	当館スタッフ	平成26年8月30日(土) 平成26年8月31日(日)	30人	友の会会員3,000円
中高生ワークショップ： 暗室でのモノクロ現像を体験しよう	当館スタッフ	平成26年9月20日(土) 平成26年9月21日(日)	9人	中高生2,000円
B&Wフィルム現像&プリントワークショップ (会場／ザ・ダークルーム・インターナショナル)	斎藤久夫(ザ・ダークルーム・インターナ ショナル代表)	平成26年11月3日(月・祝)	6人	一般6,000円
合 計			285人	

共催ワークショップ

写真関連団体等と連携してワークショップを実施した。

テーマ	講師等	開催日	参加人数	参加費
親子でピンホール写真体験教室 共催：公益社団法人日本写真協会 協力：富士フィルムイメージングシステムズ(株)	公益社団法人日本写真協会会員/ 当館スタッフ	平成26年6月28日(土) 平成26年6月29日(日)	102人	一般・子供1,000円
合 計			102人	

講演会等

展覧会と連動して、展覧会出品作家、展覧会関係者による講演会等のプログラムを実施した。

【収蔵展・自主企画展】

展覧会・事業名	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数
没後百年 日本写真の開拓者 下岡蓮杖	パネルディスカッション 「下岡蓮杖～作品とその生涯～」	平成26年4月13日(日)	登壇者：森重和雄(初期写真研究者)、石黒敬章(ゆうもあくらぶ事務局長、日本写真芸術学会評議員) 齋藤多喜夫(写真研究者・横浜開港資料館元調査研究員) 司会：三井圭司(担当学芸員)	105人
黒部と槍 冠松次郎と穂苅三寿雄	槍を撮る・槍に生きる	平成26年4月5日(土)	神長幹雄(『山と溪谷』元編集長)、穂苅康治(槍ヶ岳山荘グループ代表)	159人
	山を見る・撮る・読む	平成26年4月12日(土)	大森久雄(編集者/実業之日本社・元出版部長)、水越武(写真家)	103人
平成26年度 東京都写真美術館コレクション展 スピリチュアル・ワールド	アーティスト・トーク	平成26年6月27日(金)	三好耕三(出品作家)	58人
佐藤時啓 光一呼吸 そこにいる、そこにはいない	講演会	平成26年5月17日(土)	佐藤時啓(出品作家)	74人
岡村昭彦の写真 生きること死ぬことすべて	シンポジウム	平成26年9月6日(土)	モデレーター：生井英考(立教大学教授) パネリスト：百々新(写真家)、小林美香(東京国立近代美術館 客員研究員)、戸田昌子(武蔵野美術大学非常勤講師)	97人
フィオナ・タン まなざしの詩学	アーティスト・トーク	平成26年7月20日(日)	フィオナ・タン(出品作家)・岡村恵子(担当学芸員)	202人
	ゲスト・トーク	平成26年8月16日(土)	近藤健一(森美術館キュレーター) × 岡村恵子(担当学芸員)	65人
第7回恵比寿映像祭 「惑星で会いましょう」	ラウンジトーク	平成27年2月27日(金)	鈴木光(出品作家)	22人
		平成27年2月28日(土)	佐々木友輔(出品作家)	50人
		平成27年3月1日(日)	山口典子(出品作家)	66人
		平成27年3月2日(月)	クララ・イアンニ(出品作家)	18人
		平成27年3月4日(水)	石山友美(映画作家)、太田佳代子(建築キュレーター)	22人
		平成27年3月7日(土)	瀬田なつき(オフサイト出品作家)	71人
		平成27年3月8日(日)	ダンカン・キャンベル(出品作家)	76人
		平成27年2月27日(金)	近藤亜樹、山本良浩(出品作家)	41人
	上映関連ゲストトーク	平成27年2月28日(土)	ヴェサ・ヴェフィライネン(出品作家/AV-arkki(フィンランド)・メディア・アート・ディストリビューション・センター)代表)	46人
		平成27年2月28日(土)	中島崇(ゲスト)	63人
		平成27年3月1日(日)	栗原みえ(出品作家)	26人
		平成27年3月1日(日)	メイスク・タウリシア(プログラマー)	52人
		平成27年3月3日(火)	栗原みえ(出品作家)	32人
		平成27年3月4日(水)	加藤直輝、シニギワ(出品作家)	55人
		平成27年3月5日(木)	大久保賢一(ゲスト)	45人
		平成27年3月7日(土)	三宅唱(出品作家)	117人
		平成27年3月7日(土)	ダンカン・キャンベル(出品作家)	112人
		平成27年3月8日(日)	今福龍太(ゲスト)	74人
	ホールライブ「Radiologic 一久野ギルwithゲスト・ミキサーKEN ISHII」	平成27年2月27日(金)	久野ギル(出品作家)、KEN ISHII(テクノ・アーティスト、DJ)	166人
	ホールライブ「《クラウド》プレゼンテーション」	平成27年2月28日(土)	ジョナサン・ミナード&ジェームズ・ジョージ(出品作家)	207人
ホールライブ「KEITAI GIRL インセプション」	平成27年3月1日(日)	山口典子(出品作家)	144人	
ホールライブ「堀尾寛太ライブ」	平成27年3月7日(土)	堀尾寛太(出品作家)	171人	
スペシャル上映 「爆音SF [35mm]《宇宙人東京に現れる》」 ゲストトーク	平成27年3月3日(火)	田中重幸(株式会社KADOKAWA)、岩佐陽一(ライター、『昭 和特撮大全』他著者)	72人	
スペシャル上映 「爆音SF [35mm]《ダークスター》」ゲストトーク	平成27年3月4日(水)	樋口泰人(boid主宰、爆音プロデューサー)、篠崎誠(映画監督)	108人	
Yebizoラウンドテーブル 「『ホール・アース・カタログ』をめぐる」	平成27年3月2日(月)	室謙二(ジャーナリスト、評論家)、赤田祐一(編集者)、ジョ ナサン・ミナード&ジェームズ・ジョージ(出品作家)	52人	
Yebizo ラウンドテーブル 「メディアアートとしてのハッキングのこれから」	平成27年3月6日(金)	真鍋大度(アーティスト、プログラマー)、石橋素(ア ーティスト、エンジニア)、福原志保(アーティスト、バイオデザイナー、 BCL)、徳井直生(Qosmo代表取締役、工学博士)	53人	
シンポジウム 「映像と着色ー記憶のタイムマシーン」	平成27年3月5日(木)	パネリスト：岩田真治(NHK制作局第1制作センターチーフ・ ディレクター)、ルイ・ウォードヴィル(『Apocalypse(黙示 録)』プロデューサー)、吉見俊哉(社会学者、東京大学大学院 情報学環教授) 司会：池村俊郎(日仏会館、帝京大学経済学部教授) モデレーター：田坂博子(恵比寿映像祭ディレクター)	52人	
スペシャルトーク 「ドキュメンタリーの映し方をめぐって」	平成27年2月28日(土)	ホンマタカシ(写真家)、諏訪教彦(映画監督、東京芸術大学教 授)	110人	
パフォーマンス 「コンタクトゴンゾ×《最初にカケスがやってくる》」	平成27年3月8日(日)	コンタクトゴンゾ	205人	
合 計			3,191人	

【誘致展】

展覧会	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数
日本写真家協会展 第39回写真公募展	講演会 「写真の可能性 ～ソーシャルアクションとしての『親子の日』～」	平成26年5月17日(土)	ブルース・オズボーン(日本写真家協会会員)	140人
	JPS展アトリエセミナー 「デジタルおもちゃ箱」 協力：株式会社ケンコー・トキナー/ 株式会社よしみカメラ	平成26年5月24日(土)	岩本 朗(日本写真家協会会員)	34人
世界報道写真展2014	「一日報道カメラマン」	平成26年7月29日(火)	主催：朝日新聞社文化事業部	10人
「原点を、永遠に。」 清里フォトアートミュージアム (K*MoPA) 開館20周年記念世界の若い写真家の情熱を未来に伝える「ヤング・ポートフォリオ」20年の軌跡	関連トーク・イベント	平成26年8月9日(土)	森山大道(1995,2014年度選考委員)×内藤正敏(2000年度選考委員)	70人
		平成26年8月10日(日)	佐伯剛(「風の旅人」編集長)×百瀬俊哉(購入作家)×中藤毅彦(購入作家)×会田法行(購入作家)	43人
		平成26年8月22日(金)	飯沢耕太郎(写真評論家)×元田敬三(購入作家)×北野謙(購入作家)×秦雅則(購入作家)	53人
		平成26年8月23日(土)	瀬戸正人(2013,14年度選考委員)×熊谷聖司(購入作家)×有元伸也(購入作家)×下園詠子(購入作家)	98人
		平成26年8月24日(日)	鬼海弘雄(2011,12年度選考委員)×都築響一(2011年度選考委員)	100人
写真新世紀東京展2014	グランプリ選出公開審査会	平成26年9月12日(金)	大森克己(写真家)、佐内正史(写真家)、榎木野衣(美術批評家)、清水稔(写真評論家)、ヒロミックス(写真家)	145人
合 計				693人

ギャラリートーク

展覧会会期中には、出品作家や担当学芸員による展示解説を行った。

【収蔵展・自主企画展】

展覧会・事業名	開催日	講師等	参加人数
没後百年 日本写真の開拓者 下岡蓮杖	平成26年4月11日(金)・15日(火)・25日(金)・26日(土)・28日(月)・29日(火・祝)・5月3日(土・祝)・4日(日・祝) 5日(月・祝)・6日(火・休)	三井圭司(担当学芸員)	484人
没後百年 日本写真の開拓者 下岡蓮杖 (英語フロアレクチャー)	平成26年4月6日(日)・5月1日(木)	アリス・ゴードンカー ([「ジャパントタイムズ」記者])	45人
黒部と槍 冠松次郎と穂苅三寿雄	平成26年4月4日(金)・18日(金)・5月2日(金)	關次和子(担当学芸員)	105人
平成26年度東京都写真美術館コレクション展 スピリチュアル・ワールド	平成26年5月23日(金)・6月11日(水)・13日(金)・21日(土)・27日(金)・7月11日(金)	石田哲朗(担当学芸員)	184人
佐藤時啓 光一呼吸 そこにいる、そこにはいない	平成26年5月16日(金)・20日(火)・24日(土)・6月6日(金)・20日(金)・7月4日(金)	鈴木佳子(担当学芸員)	173人
岡村昭彦の写真 生きること死ぬことすべて	平成26年7月19日(土)・25日(金)・8月5日(火)・8日(金)・9日(土)・22日(金)・9月12日(金)	金子隆一(担当学芸員)	339人
岡村昭彦の写真 生きること死ぬことすべて 特別フロアレクチャー「写真家から見た岡村昭彦の写真」	平成26年9月19日(金)	中川道夫(写真家・岡村展展示協力者)×金子隆一(担当学芸員)	71人
フィオナ・タン まなざしの詩学	平成26年8月1日(金)・15日(金)・18日(月)・9月5日(金)・19日(金)	岡村恵子(担当学芸員)	197人
友の会 図書館イベント金子学芸員「写真集の魅力語る」	平成26年8月8日(金)・16日(土)	金子隆一(担当学芸員)	31人
第7回恵比寿映像祭「惑星で会いましょう」	平成27年2月27日(金)・28日(土)・3月1日(日) 3日(火)・4日(水)・5日(木)・6日(金)・7日(土) 8日(日)	NPO法人アーツイニシアティブトウキョウ [AIT/エイト]、担当学芸員	59人
合 計			1,688人

【誘致展】

外部企画・資金を導入した誘致展においても、出品作家などによる展示解説を行った。

展覧会	開催日	講師等	参加人数
日本写真家協会展 第39回写真公募展	平成26年5月18日(日)・22日(木)・25日(日)・29日(木)・6月1日(日)	JPS展委員	210人
世界報道写真展2014	平成26年7月8日(火)	主催：朝日新聞社文化事業部	107人
写真新世紀東京展2014	平成26年8月30日(土)	2014年度(第37回公募) 優秀賞受賞者、佳作受賞者 2013年度(第36回公募) グランプリ受賞者 鈴木育郎	300人
合 計			617人

教育普及事業

あ・ら・かるチャー運営協議会（文化施設連携事業）

1 趣旨

渋谷駅を中心としたJR3駅、渋谷、恵比寿、原宿を結ぶエリアには、美術館、博物館、コンサートホール、テーマパーク、図書館など数多くの文化施設があり、各施設はそれぞれの特徴を活かしながら多様な文化事業を展開している。

そこで、各施設の利用者の利便性の向上とこのエリアの文化をエリア内外に浸透させ、社会に活力を与える一助になることを目的に、21の文化施設で構成する「あ・ら・かるチャー運営協議会」を、平成17年4月20日設置した。

協議会加盟の文化施設が連携して各種事業を行うことで、従来にも増して渋谷・恵比寿・原宿が魅力ある文化ゾーンとしての認知度を高め、文化芸術に触れる場や機会の提供の拡充を図り、人々の生活の中に文化が浸透し、地域社会に活力を与えることを狙いとしている。

2 ネットワーク構成施設

①NHKスタジオパーク②渋谷公会堂③トーキョーワンダーサイト渋谷④こどもの城⑤Bunkamura⑥観世能楽堂⑦戸栗美術館⑧ギャラリーTOM⑨渋谷区立松濤美術館⑩太田記念美術館⑪地球環境パートナーシッププラザ⑫国連大学⑬セルリアンタワー能楽堂⑭白根記念渋谷区郷土博物館・文学館⑮渋谷区ふれあい植物センター⑯東京都立中央図書館⑰エビスビル記念館⑱山種美術館⑲国立オリンピック記念青少年総合センター⑳東京都写真美術館㉑東急シアターオーブ（計21施設）



かるチャーさんぽ地図



3 活動実績

(1) 「あ・ら・かるチャー」運営協議会の開催

参加施設の担当者が集まり、連携事業についての協議や情報交換を行った。（実施回数：連絡会6回、事務局会5回）

(2) 広報宣伝

①さんぽ地図の印刷、配付

連携施設を紹介する「かるチャーさんぽ地図」60,000部を作成し、加盟施設にて配布。また、今年度より英語版の施設紹介パンフレット10,000部を、外国人旅行者

に向けて配布した。

②「あ・ら・かるチャー」ホームページ

参加施設のホームページ上にバナーを設置し、参加施設の紹介を行った。また、各施設のホームページにリンクを貼り相互PRを行った。

(3) 連携事業・イベント

①こどもの城「秋まつり」への出店

こどもの城主催のイベントに出店し、渋谷近隣の親子層に向けて、地域の文化施設をPRした。

開催日：平成26年9月20日(土)、21日(日)

場所：こどもの城(渋谷区)

参加者合計：947名



②第37回渋谷区くみんの広場「ふるさと渋谷フェスティバル2014」に参加

毎年約90万人が来場する同イベントに2日間にわたり出店し、渋谷・恵比寿・原宿地区の文化活動をPRした。「あ・ら・かるチャーさんぽ地図」の配布をはじめ、文化施設に関するクイズや抽選会を実施した。

開催日：平成26年11月2日(日)・3日(月・祝)

場所：代々木公園(渋谷区)

参加者合計：1,690名

③文化施設の紹介

主催企画として、トークセッション「渋谷2020—文化が動かすまちづくり」を開催し、国内外の文化施設における地域連携事業の実例をあげ、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックに向けて文化施設が担う役割を考える機会を設けた。また、渋谷周辺に限らず、都内の文化施設団体との交流を発展させた。

開催日：平成27年3月17日(火)

場所：国立オリンピック記念青少年センター(渋谷区)

後援：東京都、渋谷区

参加者数：126名



教育普及事業

ボランティア／博物館実習

東京都写真美術館ボランティア

ボランティアスタッフの積極的な参加によって、ワークショップ、スクールプログラムの来館者向けの体験プログラム、恵比寿映像祭の運営等の活動を実施した。平成26年度は休館にともない、活動日数、参加者数は減少傾向にあるが、出前授業へのボランティア参加など、休館中だからこそできる活動が加わり、充実した内容となった。

1 登録者数：68名

平成25年度からの更新登録者 68名

新規登録者 0名（募集なし）

2 ボランティア活動実績

活用事業実施回数 69回 1ヶ月平均 約5.7回

のべ参加者 290人

一人あたりの平均活動回数 4回

（ただしボランティア研修会をのぞく。）

(1) ワークショップ・スタッフ活動 18回

(2) スクールプログラム・スタッフ活動 32回

(3) 「恵比寿映像祭」会場スタッフ 19回

3 研修会・連絡会

(1) ボランティア研修会（暗室実技自主研修ほか） 9回

平成26年4月16日（水）、4月17日（木）、5月22日（木）、
6月26日（木）、7月5日（土）、7月24日（木）、8月28
日（木）、9月7日（日）、10月19日（日）

(2) ボランティア連絡会 3回

平成26年4月6日（日）、9月7日（日）、

平成27年2月14日（土）

博物館実習

東京都写真美術館における美術館業務を実地で研修することによって、学芸員養成のための実習を行った。平成26年度は展覧会業務、作品管理業務など学芸員の仕事についての総括的な講義とワークショップ、スクールプログラムといった教育普及事業のスタッフ補助を行う内容となった。

1 受け入れ日程：平成26年8月19日（火）～9月3日（水）の
うち9日間

2 受け入れ人数：10名

3 受け入れ大学：横浜国立大学、京都造形芸術大学、東京学
芸大学、青山学院大学、東京工芸大学、金
沢美術工芸大学、和光大学、清泉女子大学、
女子美術大学、立命館大学

作品資料収集／作品収集実績

●収集の基本方針

写真作品（オリジナル・プリント）を中心に、写真文化を理解する上で必要なものを、幅広く収集する。

[写真作品]

- 1 国際的な視野に立って、国内外の芸術性、文化性の高い作品を幅広く収集する。
- 2 写真の発生から現代まで、写真史の上で重要な国内外の作家・作品を幅広く、体系的に収集する。
- 3 歴史的に評価の定まった作品を重視するとともに、各種の展覧会等で高い評価を受けた作家・作品の発掘に努め、現代から未来を展望した収集を行う。
- 4 東京を表現、記録した国内外の写真作品を収集する。
- 5 日本の代表的作家については重点的に収集し、その作家の創作活動の全体像を表現し得る点数を収集する。
6. 基本方針〔写真作品〕5に基づき作品を収集した重点作家（17人）
秋山庄太郎、石元泰博、植田正治、川田喜久治、木村伊兵衛、桑原甲子雄、白川義員、土田ヒロミ、東松照明、長野重一、奈良原一高、濱谷浩、林忠彦、藤原新也、細江英公、森山大道、渡辺義雄

[写真資料]

- 1 出版物（写真集、専門書、雑誌等）については、写真文化に関するものを歴史的、系統的に収集する。
- 2 ネガフィルムの類については、作家・作品研究などに必要と考えられるものを収集する。
- 3 ポスターなど、写真展の付属資料（図録、チケット等）を収集する。
- 4 その他、作家や作品の関連資料、周辺資料を適宜収集する。

[写真機材類]

- 1 写真の原理と発掘の歴史、ソフトとハードの接点を理解させる展示に必要なものを収集する。
- 2 体験学習などの事業活動に必要なものを収集する。

[映像資料]

- 1 映像文化史を展示するのに必要な映像資料を系統的に収集する。
- 2 体験型の展示を行うため、映像装置などのレプリカや模型を計画的に製作する。
- 3 日本およびアジアの映像文化史についての調査研究を進め、重要な映像資料を収集する。
- 4 各映像ジャンルの代表的な映像資料および芸術価値の高い作品を収集する。

●写真作品収集の新指針(平成18年11月13日策定)

- 1 写真作品収集の基本方針に則り、写真美術館コレクションをより充実させる。
- 2 黎明期の写真のように、希少価値的な作品を積極的に収集する。
- 3 写真史において重要な役割を果たした歴史的作家の作品を体系的に収集する。
- 4 1980年代以降に評価の定まった作家作品を充実させる。
- 5 新進展で取り上げた作家や国内外の主要な賞を受賞した作家、国内外の主要美術館における主要展覧会において取り上げられた作家など、若手作家の作品を収集する。
- 6 写真美術館の展覧会（自主展、収蔵展）で取り上げた作家作品を収集する。
- 7 基本方針〔写真作品〕5に基づく新規重点作家の設定
 - (1) 日本を代表する作家であること
 - (2) 国内外で評価が高いこと
 - (3) 日本の写真の一分野を代表する作家であること
 - (4) 国内外の主要美術館で作品が収集され個展が開催されていること
 - (5) 現在おおよそ40代、50代、60代の作家を目安にする
 - (6) 収集にあたっては、現在の収集予算および市場の高騰を鑑み、購入及び寄贈により約200点の収蔵を目指す
 - (7) 重点作家については、国内外の写真・美術の動向を鑑み随時見直しをする
- 8 新指針7に基づく新規重点作家（21人）
荒木経惟 石内都 オノデラユキ 北井一夫 北島敬三 小山穂太郎 佐藤時啓 篠山紀信 柴田敏雄 杉本博司 鈴木清 須田一政 高梨豊 田村彰英 島山直哉 深瀬昌久 古屋誠一 宮本隆司 森村泰昌 やなぎみわ 山崎博

平成26年度収集点数：1,060点

【内訳】国内写真作品：755点 海外写真作品：46点

映像作品資料：30点 写真資料：229点

東京都写真美術館コレクション点数：31,588点

【内訳】国内写真作品：20,317点 海外写真作品：5,565点

映像作品資料：2,359点 写真資料：3,347点

●作品収集実績

東京都購入案件

作家名	作品名	技法	サイズ	点数	制作年from	備考
新井 卓	《Here and There—明日の島》	ダゲレオタイプ	203x254	2	2011	H29展覧会出品予定作品
井上 孝治	《想いの街》 《こどものいた街》他	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	508x406	20	1954-1959	
岡村 昭彦	《アイルランド》	発色現像方式印画	250x300	20	1969-1976	H26「岡村昭彦」展出品作品
木村 恒久	《都市はさわやかな朝を迎える》 《コマージュリズム》他	その他の技法	523x318	15	1970-1979	ご遺族より
佐藤 時啓	《光一呼吸》(Gleaning Lights)	インクジェット・プリント	1307x1635	6	1988-2005	H26「佐藤時啓」展出品作品
椎原 治	《Mechanical Head》他	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	256x303	8	1938	H29展覧会出品予定作品
須田 一政	《恐山》	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	251x176	3	1962	新規重点収集作家、H25展覧会出品作品、 ネガ紛失のため現存5点のみ、購入時寄贈2点
長島 有里枝	《SWISS》	発色現像方式印画	860x570	10	2007	H29展覧会出品予定作品
林 ナツミ	《Today's Levitation》	発色現像方式印画	610x508	10	2011	H25「日本の新進作家 vol.12 路上から世界を変えていく」展関連作品
村井 修	《Moment》	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	285x224	8	1964-1974	H28展覧会出品予定作品
山田 實	《髪結い 那覇市櫻坂にて》他	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	534x380	15	1950-1963	H31展覧会出品予定作品
渡辺 眸	《東大全共闘》	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	176x254	5	1968-1969	H25「日本写真の1968」展出品作品
SUDEK, Josef	《PRAHA, Deset Nalabovych Fotografii》	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	500x390	10	1920-1929	作家本人による最初期のポートフォリオ、 エディション不明、制作部数25部、 プラハ装飾美術館学芸員によるアイデンティ フィケーション付
SINGH, Dayanita	《Myself Mona Ahmed》	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	309x457	21	1990-2000	H29展覧会出品予定作品
岩井 俊雄	《時間層Ⅱ》	その他の技法 (ミクストメディア)	2000x1200x1200	1	1985	2014年まで毎日新聞社所蔵、 写真美術館寄託
かわなか のぶひろ	《PLAY BACK》 《Kick the World》	その他のフィルム (シングルチャンネル・ビデオ)		2	1973-1974	第7回恵比寿映像祭出品作品、 マスターテープ+作品視聴用デジタルデー タ、館外貸出不可
中谷 芙二子	《老人の知恵-文化のDNA》 《卵の静力学》	その他のフィルム (シングルチャンネル・ビデオ)		2	1973	第7回恵比寿映像祭出品作品、マスターテ ープ+作品視聴用デジタルデータ、エディシ ョンなし
合 計				158		

東京都写真美術館購入案件

作家名	作品名	技法	サイズ	点数	制作年from	備考
下岡 蓮杖	《GAB「日本」ステレオ写真》	鶏卵紙	71x150	30	1866-1876	H25「下岡蓮杖」展出品作品
BEATO, Felice	《(Woman with fan)》他	鶏卵紙	243x204	7	1863-1866	手彩色による着彩。スタジオの状況から、横 浜居留地の大火(1866年10月)によって消 失した初期のスタジオで制作された写真だと 考えられる
HUDSON, Frederick A.	《No. 42》	鶏卵紙	95x57	1	1872	H31展覧会出品予定作品
MUMLER, William H.	《Charles H. Foster of New York and Ada Issacs Menken》	鶏卵紙	95x57	1	1871	H31展覧会出品予定作品
下岡 蓮杖	《徳川將軍初代真像》	その他の技法	243x204	1	1864-1876	石版画、H25「下岡蓮杖」展出品
合 計				40		

※東京都写真美術館購入案件40点については、委員会で購入決定後、東京都歴史文化財団から東京都に寄贈する。

寄贈

作家名	作品名	技法	サイズ	点数	制作年from	備考
井上 孝治	《あの頃：1959年 沖縄の空の下で》 《思い出の街》《こどものいた街》他	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	305x435	91	1950-1975	購入時寄贈
梅阪 嵩里	《芍薬》《葉師寺月夜》他	ゴム印画	240x292	3	1927-1930	寄託（松本徳彦氏より1991年度）からの切替
江崎 礼二	《徳大寺公弘と一人の男性》	アンプロタイプ	106x82	1		寄託（松本徳彦氏より1991年度）からの切替
岡村 昭彦	《ヘリコプターで水田に投入される 南ベトナム政府軍兵士たち》他	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	250x370	142	1964	H26「岡村昭彦」展出品作品
鍛冶谷 直記	《JPEG》	インクジェット・プリント	1116x836	10	2002-2013	H25「日本の新進作家」展出品作品
冠 松次郎	《黒部深谷》	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)		52	1921-1935	H25「黒部と槍 冠松次郎と穂刈三寿雄」展出品作品 公益社団法人日本山岳会より
北井 一夫	《神田明神下の萱屋》他	インクジェット・プリント	280x190	8	1971-1972	H24「北井一夫」展、新規重点収集作家
佐藤 時啓	《光・呼吸》《Polaroid Works》 《Wandering Camera 2》	インクジェット・プリント	599x749	46	1995-2014	H26「佐藤時啓」展出品作品、新規重点収集作家
下島 勝信	《Dust Trail》	ゼラチン・シルバー・プリント(P.O.P)	266x342	1	1927	中川泰旧蔵作品、芸術写真
鈴木 真一	《近衛氏他集合写真》	鶏卵紙	212x263	1	1891	寄託（松本徳彦氏より1998年度）からの切替
須田 一政	《恐山》	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	248x163	2	1962	H25「須田一政」展出品作品。ネガ紛失のため、 現存プリント5点のみ
津田 隆志	《SITE》	発色現像方式印画	1160x2360	1	2011	H25「日本の新進作家」展出品作品、50点組のインス タレーション、1画像200×200mm 額付
中川 泰	《別離》《アラメダの秋》他	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	281x239	70	1929-1959	1920～30年代のアメリカ西海岸で活躍した ビクトリアリズムの芸術写真家。作家関係者より
中島 待乳	《徳川家達他集合写真》	鶏卵紙	209x263	1	1891	寄託（松本徳彦氏より1998年度）からの切替
中村 ケンタロー	《タペの波》	ゼラチン・シルバー・プリント(P.O.P)	306x218	1	1929	中川泰旧蔵作品、芸術写真
林 ナツミ	《Today's Levitation》	インクジェット・プリント	1000x1500	6	2011-2013	H25「日本の新進作家」展出品作品
非ユークリッド写真連盟	《組み立てフォトモ》	発色現像方式印画	368x245	20	1996-2003	H25「日本の新進作家」展出品作品 フォトコラージュ作品
福森 白洋	《裸婦像》他	ブロムオイル印画	150x109	116	1921-1929	寄託からの切替
山田 寛	《波の上のプール》《種ぶた 屋慶名》他	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	380x534	15	1960-1975	H31展覧会出品予定作品
渡辺 眸	《東大全共闘》	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	176x254	5	1968-1979	H25「日本写真の1968」展出品作品
作家不詳	《徳大寺公弘と犬》	アンプロタイプ	73x102	11		寄託（松本徳彦氏より1991年度）からの切替
EVANS, Walker	《Untitled》	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	187x124	2	1935	
STEICHEN, Edward	《(樹木)》	銀色素漂白方式印画	237x165	1		元「ジャパン・タイムス」のコラムニスト、 1956年のスタイケン
作家不詳	《(ドレスを着た婦人の肖像写真)》他	オートクローム	180x130	3		寄託（松本徳彦氏より1991年度）からの切替
内田 九一	《(オカダ シゲノブ)》他	鶏卵紙	90x57	4		寄託（松本徳彦氏より1991年度）からの切替
金田 英雄	《福森白洋氏》	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)		1	1928	寄託からの切替
福森 白洋	《老漁夫》他	ブロムオイル印画	430x290	73		寄託からの切替
作家不詳	《浪華写真倶楽部最高受賞者額》他		240x295	16		寄託からの切替
作家不詳	《水戸 借楽園》他	鶏卵紙	59x89	134		寄託（松本徳彦氏より1991年度）からの切替
岩井 俊雄	《Floating Music》《光の驚き盤》	その他の技法	1500x900x900	4	2001-2003	寄託からの切替+新規寄贈1点 13個の驚き盤装置と約200枚の種板
末永 蒼生	《幻のブラックフェスティバル・ 新宿番外地編》 《国際反戦デー 10月21日夜新宿》	その他のフィルム		2	1968	H25「日本写真の1968」展出品作品
中谷 美二子	《水俣病を告発する会-テント村 ビデオ日記》	その他のフィルム		1	1972	H24「映像をめぐる冒険 vol.5」展出品作品
三田村 俊右	《Heliotrope》他	その他のフィルム	300x400	14	1981-2001	ホログラフィ
宮井 陸郎	《シャドウ》《パーティ》	その他のフィルム		2	1969-1970	H24「映像をめぐる冒険 vol.5」展出品作品
松村 泰三	《Space Cycloid》	その他の技法	80x110x110	1	1987	寄託からの切替
Narpati Awangga, a.k.a. oomleo	《The Travelling of THIS》	ミクスト・メディア		1	2014	H26「第6回恵比寿映像祭」出品作品
合 計					862	

●プリントスタディールーム

東京都写真美術館では、写真作品・資料の収集、展覧会等での
展示・鑑賞をおこなっており、研究・鑑賞のために直接作品等
を閲覧する特別閲覧（プリントスタディールーム）制度を設けて
いる。（実績は62ページ）※平成26年7月1日から休止

平成26年度収蔵作品の紹介

東京都購入案件



木村恒久 《アトラディカルタワー》
1971年 その他の技法



須田一政 《恐山》より
1962年 ゼラチン・シルバー・プリント



長島有里枝 《SWISS》より《薪置場のバラ》
2007年 発色現像方式印画



椎原治 《Mechanical Head》
1938年 ゼラチン・シルバー・プリント



村井修 《国立屋内総合競技場》
1964年 ゼラチン・シルバー・プリント



岡村昭彦 《兵士による検問を通り抜ける女性》
1970年 発色現像方式印画



渡辺眸 《東大全共闘》
1968-69年 ゼラチン・シルバー・プリント



ダヤニータ・シン 《Taking Ayesha to school》
1992年 ゼラチン・シルバー・プリント



山田寛 《靴磨きの少年 国際通り》
1956年 ゼラチン・シルバー・プリント



新井卓 〈Here and There—明日の島〉より
《2011年7月25日、飯館村飯樋》
2011年 ダゲレオタイプ



林ナツミ 《Today's Levitation 05/13/2011》
2011年 発色現像方式印画



佐藤時啓 〈光一呼吸〉より《#22》
1988年 インクジェット・プリント



井上孝治 〈想い出の街〉より 〈雑餉隈市道〉
1956年6月 ゼラチン・シルバー・プリント



ヨセフ・ステック 〈PRAHA〉
1920年代 ゼラチン・シルバー・プリント



岩井俊雄 〈時間層Ⅱ〉
1985年 ミクスト・メディア



かわなかのぶひろ 〈PLAY BACK〉
1973年 シングルチャンネル・ビデオ



中谷美二子 〈老人の知恵=文化のDNA〉
1973年 シングルチャンネル・ビデオ

東京都写真美術館購入案件



フレデリック・A.ハドソン 《No.42》 1872年 鶏卵紙



ウィリアム・H.マムラー 《ニューヨークのチャールズ・H.フォスターとアダ・アイザックス・メンケン》 1871年 鶏卵紙



下岡蓮杖
上 《徳川將軍初代真像》 1864年頃 石版画
下 《Japanese Scene Hulling Rice》
〈GAB「日本」ステレオ写真〉より 1866-1876年頃 鶏卵紙



フェリーチェ・ベアト 《(Woman with fan)》
1863-1866年頃 鶏卵紙に手彩色

調査研究・普及活動(個人)

【東京都写真美術館展覧会図録論文集】

石田哲朗

「神々を透視する—精神性の領域へ」『平成26年度東京都写真美術館コレクション展 スピリチュアル・ワールド』展図録、東京都写真美術館、pp.7-13

岡村恵子

「フィオナ・タンをめぐる用語集」、「まなざしの詩学」によるノート『フィオナ・タン まなざしの詩学』展図録、美術出版社、2014年、pp.6-165, 176-179

金子隆一

「写真」は誰のものか——岡村昭彦の作家性——『岡村昭彦の写真 生きること死ぬことすべて』展図録、美術出版社、2014年、pp.187-190

鈴木佳子

「写真のなかだけに存在しうる世界——うつるものとうつらないもの」『佐藤時啓 光-呼吸 そこにいる、そこにはいない』展図録、東京都写真美術館、2014年、pp.174-178

【東京都写真美術館紀要No. 14】

石田哲朗

「高木庭次郎の幻灯写真——収蔵作品《日本風景風俗100選》について」pp.97-112

武内厚子

「東京都写真美術館のスクールプログラムの利用状況について」pp.115-124

【寄稿】

石田哲朗

「TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY Presents vol.1 東松照明×三好耕三」『PHaT PHOTO』2014年7-8月号(第82号)、n.p.

「笠原出 ふわりんぼ／トリートメント(リプリーズ)」展、会場パンフレット(テキスト寄稿)、10月2日—28日、GALLERY TAGA2、東京、n.p.

伊藤貴弘

「巨匠写真家たちが捉えた、愛らしい瞬間。」『Pen』2014年9月1日号(第366号)、pp.46-53

「TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY Presents vol.4 田村彰英」『PHaT PHOTO』2015年1-2月号(第85号)、n.p.

岡村恵子

「アーティスト・インタビュー スティーヴ・マックイーン インタビュー」『BT美術手帖』2014年7月号第1010号、pp.193-207

「DY精神の育まれる場所[MEDIA/ART KITCHEN

AOMORI—ユーモアと遊びの政治学』『BT美術手帖』2014年10月号第1013号、pp.210-211

「フィオナ・タン作品の魅力——映像のフィジカルリティ」『国立国際美術館ニュース』第206号、2015年2月、pp.2-3
「加茂昂」『VOCA2015展 現代美術の展望—新しい平面の作家たち—』展図録、上野の森美術館、2015年、pp.34-35

笠原美智子

「書評 フォト・ドキュメンタリー 人間の尊厳」『カッティング・エッジ』第51号、2014年6月、n.p.

「この人たちを見よ！識者が選ぶ注目の写真家」『日本という枠組みを軽々と超える女性たち』『石内都 個人的な記憶から共感へ』『アサヒカメラ』2015年1月号(第100巻第1号通巻1058号)、p.90, pp.94-95

「インタラクティブレクチャー 写真表現の現在vol.02 日本の現代写真 女性作家を中心に」『せんだいスクール・オブ・デザイン 2013-2014年度年次報告書』せんだいスクール・オブ・デザイン、2014年、pp.90-93

「選評」『VOCA2015展 現代美術の展望—新しい平面の作家たち—』展図録、上野の森美術館、2015年、pp.12-13

金子隆一

「桑原甲子雄の写真 トーキョー・スケッチ60年」展評、『アサヒカメラ』5月号、pp.176-177

「岡村昭彦—写真の技法」『岡村昭彦の会 会報』第24号、岡村昭彦の会、2014年、pp.2-10

「日本は「写真集」の国である」『出版ニュース』6月上旬号、p.24

「[もの]としての写真集」『出版ニュース』7月上旬号、p.20
「岡村昭彦の「写真」を再考する」『出版ニュース』8月上旬号、p.20

「可能性としての「原板」」『出版ニュース』9月上旬、p.20
「「芸術写真」のもう一つの行方」『出版ニュース』10月上旬号、p.20

「ファン垂涎の写真集シリーズ『Six by Six』」『日本カメラ』10月号、p.7

「美術館から見た写真のいま」『日本写真家協会会報』第157号、日本写真家協会、2014年、pp.14-15

「澤田正春の写真世界」『文芸写真家澤田正春の木曾路』展図録、澤田正春作品保存継承実行委員会、2014年、pp.132-133

「写真史を逸脱する写真」『出版ニュース』11月上旬号、p.20
「「写真」はどこにあるのか？」『出版ニュース』12月上旬号、p.20

「時代の深層を目指して」『出版ニュース』1月上・中旬号、p.62

「日本の写真風土のありか」『出版ニュース』2月上旬号、p.20

鈴木佳子

「TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY Presents vol. 2 ジェイコブ・A. リース×ルイス・W. ハイン」『PHaT PHOTO』2014年9-10月号(第83号), n.p.

丹羽晴美

「Issei Suda », Aperture Magazine, issue #219, Summer 2015, Aperture, NY, pp. 86-93.

藤村里美

「TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY Presents vol. 3 米田知子」『PHaT PHOTO』2014年11-12月号(第84号), n.p.

「TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY Presents vol. 6 木村恒久」『PHaT PHOTO』2015年4-5月号(第87号), n.p.

三井圭司

「外国人カメラマンが撮った幕末」『レンズが撮らえた外国人カメラマンが見た幕末日本Ⅰ』(小沢健志監修、三井圭司編集)山川出版、2014年、pp.4-21

「パノラマ写真について」『レンズが撮らえた外国人カメラマンが見た幕末日本Ⅱ』(小沢健志監修、三井圭司編集)山川出版、2014年、pp.136-145

山口孝子

「2013年写真の進歩、展示・修復・保存関係」『日本写真学会誌』第77巻3号、日本写真学会、2014年、pp.198-200

山峰潤也

「TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY Presents vol.5 ハロルド・ユージーン・エジャートン×NASA」『PHaT PHOTO』2015年3-4月号(第86号)、n.p.

【学会発表】**三井圭司**

「Surviving tsunami: a project in Japan to salvage and digitize extremely damaged photographic archives», Archive 2.0, National Media Museum, Bradford, 2014年11月25日

山口孝子

白岩洋子、山口孝子、新井英夫、小谷野匡子、大川美香、「水損写真へのチアソリン系混合溶液含有防黴剤の検討」、第36回文化財保存修復学会、文化財保存修復学会、明治大学アカデミーコモン、2014年6月7日

山口孝子、中川裕美、笛木諭、「劣化フィルムから放散する酢酸ガス量の測定およびその低減方法の検討」、第36回文化財保存修復学会、文化財保存修復学会、明治大学アカデミーコモン、2014年6月8日

【講演会・シンポジウム等】**伊藤貴弘**

「『世界一美しい本を作る男—シュタイデルとの旅—』アフタートーク」(大野留美との対談)、東京都写真美術館、2014年5月24日

岡村恵子

「山城知佳子 上映会・講演会」(山城知佳子との対談)、2014年11月1日、内田洋行 ユビキタス協創広場 U-cala (札幌市)

「Covered Tokyo/NIKKEI Art Lounge : アートと映像をめぐるプロブレマティーク」(三輪建仁との対談)、2014年11月7日、渋谷ヒカリエ9F

笠原美智子

大邱美術館ワークショップ「東京都写真美術館について」2014年11月6日、韓国大邱

金子隆一

講演会「桑原甲子雄——トーキョー・スケッチ60年」世田谷美術館、2014年5月3日

講演会「近代写真の成立と福沢一郎の写真」福沢一郎記念館、2014年5月14日

シンポジウム「今よみがえる、木村伊兵衛の世界」秋田県大仙市大曲市民会館、2014年10月11日

ギャラリー・トーク「文芸写真家澤田正春の木曾路」展長野県伊那文化会館、2014年11月8日

鈴木佳子

ExART-アートの寺子屋(ステイラート主催)「植田正治とジャック・アンリ・ラルティエグ展について」2014年12月16日、表参道CTW

田坂博子

平成26年度[第18回]文化庁メディア芸術祭・功労賞シンポジウム「『ネットワーク・ツールとしてのビデオ:通信テクノロジー・芸術・社会』2015年2月6日、国立新美術館 3階講堂

丹羽晴美

一般社団法人日本芸術写真協会主催、ヒルサイドテラス フォトフェア「トークセッション 須田一政×鈴木理策×丹羽晴美」2014年9月4日、代官山ヒルサイドテラス

藤村里美

対談「リフレクション展 Division2 村越としや/山下隆博」プレイスM、2014年5月17日

トークイベント「進藤環「響く、回遊する」展記念トーク」東京総合写真専門学校、2014年9月28日

三井圭司

講演会「下岡蓮杖の写真と技術」「没後百年 日本写真の開拓者 下岡蓮杖」展美術講座、静岡県立美術館講座室、2014年6月29日

“Surviving the Tsunami: Salvaging and Digitalising Historical Photographs”, Cornwall Terrace, Daiwa Anglo-Japanese Foundation, London, 2014年11月18日
“Surviving the Tsunami: Salvaging and Digitalising Historical Photographs”, Seminar room, English Heritage archive, Swindon, 2015年1月6日

山峰潤也

連続トークシリーズ「インターネット時代の風景論」全5回、IMA CONCEPT STORE、2014年11月19日～12月17日

山口孝子

東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター研究集会「ガラス乾板の調査・保存・研究資源化に関する研究」、パネルディスカッション、東京大学本郷キャンパス 福武ラーニングシアター、2014年11月6日

研究フォーラム「持続可能なIPMに向けて—博物館環境データの分析手法を考える」、 「写真資料の保存環境分析」、国立民族学博物館、2015年2月20日

【非常勤講師等】

伊藤貴弘

嘉悦大学ビジネス創造学部「メディア表現技法B」2014年7月3日

岡村恵子

早稲田大学文学術院文化構想学部「コンテンポラリー・アート」春学期

笠原美智子

明治学院大学大学院「美術史学特殊講義ⅢA, B」春学期・秋学期

九州産業大学大学院「写真特殊演習」2014年5月23日

明治大学理工学部共通総合講座B「写真とフェミニズム」2014年11月19日4時限

金子隆一

武蔵野美術大学芸術文化学科「写真論Ⅰ」（前期）「写真論Ⅱ」（後期）

武蔵野美術大学映像科大学院「写真特論」（通年）

筑波大学体育芸術学群「創造的復興 カタストロフィーと芸術<原爆と戦後日本の写真表現>」2014年10月24日

明治大学学部間共通総合講座「写真家の仕事<写真史研究の方法>」2014年11月12日

鈴木佳子

跡見学園女子大学「写真論」2014年春学期

丹羽晴美

学習院女子大学国際文化交流学部「国際文化交流演習」2014年前期

“Japanese photography - Analysis and interpretation”,

the course of Kulturwissenschaften and Aesthetics communications, semester of autumn and winter in 2014 - 2015, University of Hildesheim, Germany

藤村里美

玉川大学芸術学部ビジュアル・アーツ学科「写真史」2014年前期

三井圭司

明治学院大学「写真史写真理論研究」2014年春学期・秋学期

北海道教育大学「デザイン演習Ⅳ」2014年夏期集中講義
2014年8月4日～7日

山峰潤也

明治学院大学「デジタルアート論2A」2014年春学期

山口孝子

東海大学課程資格教育センター、「博物館学実習Ⅰ 写真技術」、春・秋学期集中講義

東京文化財研究所、保存担当学芸員研修、「劣化と保存 写真」、2014年7月18日

米崎清実

法政大学現代福祉学部福祉コミュニティ学科「文化環境創造論」2014年度秋学期

法政大学通信教育課程文学部史学科「史学演習」冬期スクーリング設置科目2015年1月21日～27日

法政大学通信教育課程文学部史学科卒業論文指導

【委員・審査員等】

石田哲朗

「東京インターナショナル・ポートフォリオ・レビュー」、レビューアー、2014年8月22日～23日、studio lotus、東京

伊藤貴弘

平成26年度（第65回）東京都立高等学校校定時制通信制課程芸術祭写真部門審査員

碓井千鶴

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2014ノミネート審査員、第2回ベルリン国際映画祭 in 仙台 プログラムディレクター、メディアス・ピニエイロ映画祭2014プロデュース

岡村恵子

「トヨタ コレオグラフィアワード2014」ゲスト審査員、現代美術の展望「VOCA展」推薦委員（上野の森美術館）、平成26年度愛知芸術文化センター・オリジナル映像作品制作作家選定委員会委員

笠原美智子

東京国立近代美術館評議員（美術・工芸部会）、東京国立近代美術館美術作品購入等選考委員会委員（写真部門）、財団法人西洋美術振興財団賞審査委員、財団法人周南市振興財団林忠

彦賞選考委員、東川賞審査員（東川町）、財団法人五島記念文化財団五島記念文化賞美術新人賞候補者推薦委員、国際交流基金「国際展事業委員会」委員、「VOCA展」実行委員および選考委員（上野の森美術館）、吉野石膏美術振興財団評議員、「MIO PHOTO OSKA」レビュアー、nominator for the Prix Pictet Award, nominator for the Fifth Edition 2014/15 of GD4PhotoArt

金子隆一

日本写真芸術学会協会理事、公益財団法人河鍋暁斎記念美術館理事、文化審議会専門委員、松戸市立博物館等資料選定委員会委員、高浜市やきもの里かわら美術館運営審議会委員・横浜市美術資料収集審査委員、沖縄県立博物館・美術館収集委員会委員、芸術選奨審査委員、鳥取県展審査委員

田坂博子

平成26年度 [第18回]文化庁メディア芸術祭選考委員（アート部門）

丹羽晴美

福島市写真美術館企画専門委員

藤村里美

神奈川県美術展（写真部門）審査員

三井圭司

陸前高田被災資料デジタル化プロジェクト事務局長、史跡上田城跡整備実施計画検討委員

山口孝子

日本写真学会理事、日本写真学会画像保存研究会委員、日本写真保存センター諮問調査委員、国立歴史民俗博物館資料保存環境検討委員会委員、国立国会図書館資料保存懇話会委員、国立民族学博物館人間文化研究機構連携研究員

米崎清実

関東近世史研究会評議員、法政大学史学会評議員

【インターン及び研究者】

写真美術館では平成20年度からインターン制度を導入している。原則1年間、指導学芸員と共に美術館のスタッフとして展覧会や普及事業等を担当し、将来の美術館活動及び写真・映像文化を支える専門的な人材を育成することに寄与することを目的としている。平成26年度は大規模改修工事のため、インターンの受入はなかったが、下記のとおり研究者の受入を行った。

植田憲司

（高知県立美術館石元泰博フォトセンター担当学芸員）

担当業務：作品保存管理

担当学芸員：藤村里美

（期間：平成26年4月1日～6月30日）

ベッカ・ヴォルカー（Rebecca Volker）

（ケンブリッジ大学修士課程 [スクリーン、メディア、文化]、

大和日英基金・大和スコラー23期生）

担当業務：恵比寿映像祭

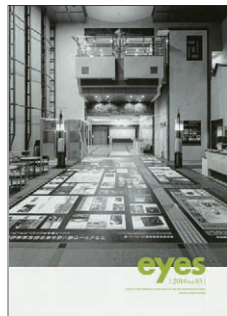
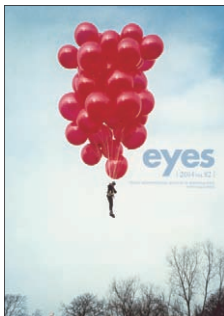
指導員：柳生みゆき

（期間：平成26年10月22日～平成27年3月31日）

広報事業

平成26年度は、年度途中から休館に入ることを踏まえ、展覧会告知と休館告知のバランスを考えながら広報を実践した。休館中も恵比寿映像祭が開催されるため、休館中の美術館活動を積極的に発信することで、動き続ける美術館のイメージを訴求した。休館前のクロージングイベントでは、これまでの東京都写真美術館のあゆみを振り返る企画をはじめ、リニューアル・オープンへ向けて来館者の期待感を演出した。

- 1 広報誌「写真美術館ニュースeyes（アイズ）」発行
(vol.82～vol.84) 季刊、発行部数：各号30,000部
＜巻頭記事・メインテーマ＞
82号「フィオナ・タン」
83号「フライヤーで振り返る東京都写真美術館 1990-2014」
84号「平成26年度新収蔵作品について」



ニュース82～84号表紙

2 ホームページの活用

開館中（4月～9月）の平均アクセス数は、約49万ページビュー（以下PV）で、休館以降（10月～3月）は約18万PVを推移した。平成26年9月24日から休館用トップページにデザイン変更し、新着情報、「えびす日記」、および公式ツイッターを中心に情報発信を行った。
公式ホームページ www.syabi.com
公式ツイッター @syabi_press

3 プレスリリース作成、発送およびプレス取材対応

リリース件数は各回約670件。また、電話・FAX・メールでの記事掲載対応の他、取材依頼、撮影・収録などを行った。リリースでは見どころを簡潔に説明し、作品図版は大きく掲載するなど、作品の魅力をわかりやすく伝えた。すべての展覧会に英語プレスリリースを用意した。展覧会取材では積極的に作家や学芸員がインタビュー取材に対応するなど、媒体の特性に適した対応を心がけた。

4 チラシ・ポスターの配布

マスコミ、美術館、写真・教育関係など各所にチラシ・ポスター等の掲出物を送付。展覧会毎にターゲットを絞った配布先を増やし、配布を強化した（各回約300件）。

5 懸垂幕、壁面スペースへの掲出

JR恵比寿駅側の懸垂幕、館ディスプレイシート、恵比寿ガーデンタワー側の巨大写真で、写真美術館の活動やイメージを発信した。休館直前には東口ポスターケース全面を利用し休館告知を掲出した。



懸垂幕掲出例



館ディスプレイシート掲出例



東口ポスターケース全面掲出例

6 広告スペースへの掲出

(1) 交通広告

年間を通じて首都圏JR・地下鉄の窓上広告、JR恵比寿駅東口改札内柱広告、恵比寿スカイウォーク入口電飾広告、恵比寿スカイウォーク内電飾広告を行った。



恵比寿スカイウォーク内電飾広告掲載例

また、展覧会企画にあわせて展覧会B1ポスターを掲出した。都内主要美術館の最寄駅に露出を増やし、効果的な集客を実現した。

展覧会名／「フィオナ・タン」「岡村昭彦の写真」展
各B1ポスター

掲載枚数／40枚 (のべ40週)

掲載期間／平成26年7月15日～8月17日 ※各駅
によって異なる

掲出駅／六本木、乃木坂、麻布十番、竹橋、二重橋
前、東京

(2) 新聞・インターネット広告

展覧会やイベントを広く告知するために広告を掲載した。新聞とインターネット広告の掲出は以下のとおり。

(ア) 「スピリチュアル・ワールド」

朝日新聞夕刊アート面下半5段 (210万部)

平成26年5月14日(水)

日本経済新聞夕刊ミュージアムガイド面7段1/6

(95万部)

平成26年6月5日(木)

CINRA.NET ニュース掲載／コラム・インタビュー
ページ／twitter

平成26年5月29日(木)～7月13日(日)

(イ) 「佐藤時啓 光一呼吸 そこにいる、そこにはいない」

朝日新聞夕刊アート面下半5段 (210万部)

平成26年5月14日(水)

日本経済新聞夕刊ミュージアムガイド面7段1/6

(95万部)

平成26年6月5日(木)

(ウ) 「岡村昭彦の写真 生きること死ぬことすべて」

朝日新聞夕刊アート面下半5段 (210万部)

平成26年7月23日(水)

朝日新聞夕刊記事下全5段 (210万部)

平成26年9月10日(水)

日本経済新聞朝刊記事下全7段 (275万部)

平成26年9月14日(日)

(エ) 「フィオナ・タン まなざしの詩学」

朝日新聞朝刊展覧会企画面全10段 (380万部)

平成26年7月19日(土)

朝日新聞夕刊アート面下半5段 (210万部)

平成26年8月13日(水)

朝日新聞夕刊記事下全5段 (210万部)

平成26年9月10日(水)

日本経済新聞朝刊記事下全7段 (275万部)

平成26年9月14日(日)

CINRA.NET ニュース掲載／コラム・インタビュー
ページ／twitter

平成26年8月4日(月)～9月23日(火・祝)

CINRA.NET スクエアバナー広告

平成26年7月22日(火)～8月4日(月)



CINRA.NET 「フィオナ・タン」 WEB掲載ページ



「フィオナ・タン」7/19 新聞掲載広告



「スピリチュアル・ワールド」、「佐藤時啓」5/14 新聞掲載広告



「フィオナ・タン」、「岡村昭彦の写真」9/10 新聞掲載広告

7 記者懇談会の実施

記者懇談会

平成26年6月19日(木) 16:00~19:00

出席者数：17社 22名

〈主なプログラム〉

【第1部】1階創作室 (アトリエ)

- ・平成25年度事業実績報告 (第6回恵比寿映像祭実績報告を含む)
- ・受賞報告
- ・平成26年度事業計画の紹介

・平成26年度企画展の紹介

・大規模改修工事の概要、休館中の美術館の取り組み

【第2部】(4階会議室)

懇親会



アトリエ懇談会の様子



4階懇親会の様子

8 プレス向けギャラリーツアーの実施

すべての収蔵展および自主企画展について、特別鑑賞会と同日にプレス向けギャラリーツアーを開催。また、「フィオナ・タン」展では記者会見を行い、作家自身と学芸員による展覧会説明と、撮影の機会を設けた。(全2回、4展)



「佐藤時啓」展プレスツアー



「フィオナ・タン」展プレス会見



「スピリチュアル・ワールド」展
プレスツアー



「岡村昭彦」展プレスツアー

9 広報誌別冊「nya-eyes (ニアイズ)」vol.40～vol.51発行

月刊、発行部数：各号30,000部

展覧会以外の事業を紹介することを目的に、広報誌「eyes」の別冊として「nya-eyes」(ニアイズ)を刊行。漫画「クレムリン」(カレー沢薫、講談社)の漫画とコラボレーションし、新しい来館者層を開拓した。

なお、平成26年4月23日にvol.1～39を収録した「nya-eyes(ニアイズ)」単行本が講談社より発売された(初版8,000部)。



上段：ニアイズ表紙
下段：ニアイズ単行本表紙

10 「未来を創造する美術館」としての取り組み

(1) クロージングレセプション

日時：平成26年9月22日(月) 15:00～17:00

出席者：745名

写真・美術館関係者などを招き、休館前の特別レセプションを行った。

内容：館長挨拶(副館長代読)、東京都生活文化局長挨拶、乾杯(田沼武能氏)、来賓挨拶(樺山紘一氏、川内倫子氏)、フロアレクチャー(当館学芸員金子、岡村)、20周年事業の説明(笠原事業企画課長)、ニアイズ動画上映



クロージングレセプション風景

(2) クロージングイベント「フライヤーで振り返る東京都写真美術館 1990～2014」

期間：平成26年9月2日(火)～9月23日(火・祝)

1990年の一次開館から24年間の当館の歩みを、すべての収蔵展と自主企画展のフライヤー(262点)の展示によって紹介した。来館者サービスとして、館内の回遊を促すためのクイズを企画し、参加者に記念品を贈呈した。休館を前に美術館の歴史と実績を振り返り、今後のリニューアル・オープンへの期待を印象付けた。



フライヤー展 展示風景

(3) Twitterを使った情報発信

当館の公式アカウントのフォロワー(15,611名、平成27年3月末現在)へ、展覧会の開催情報や、ワークショップやイベントの募集などの情報をタイムリーに発信し、来場を促進した。休館中は、広報誌発行やブログアップの告知を中心に活用した。

(4) ブログ「えびす日記」

公式ホームページ内に、休館中の美術館の活動状況を伝える「えびす日記」を立ち上げた。作品移動の取材、リニューアル準備室の様子、また、コレクションの出品情報など、美術館スタッフの多岐にわたる業務について、学芸員や広報担当者から一般の方に向けて、親しみのあるブログ形式で紹介した。

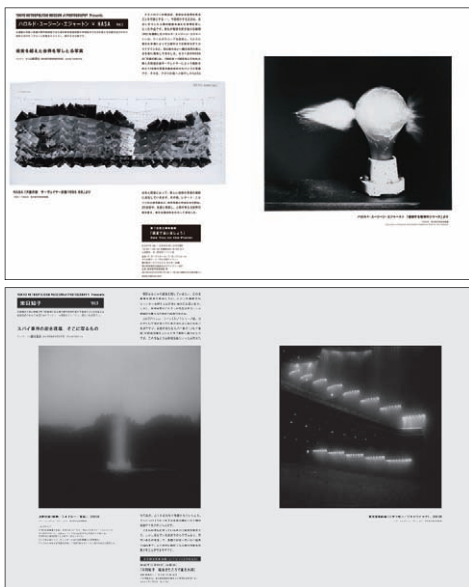


えびす日記ブログ掲載ページ

(5) 専門知識と収蔵作品を活用した広報

休館中も、写真と映像の専門美術館として、その知識と作品を活用した広報を展開した。写真・映像の知識を一般に広く普及することは当館の責務であり、休館中も映像文化への理解と発展に寄与するものである。

- A) PHaTPHOTO（学芸員の執筆による収蔵作品の紹介）
- B) YEBISUスタイル（収蔵作品と作家の紹介）
- C) CINRA.NET（写真・映像を楽しむための知識を学芸員に取材）



収蔵作品の紹介 PHaTPHOTO掲載ページ

11 リニューアル・オープンに向けた準備

新シンボルマーク・ロゴタイプを制作するためにコンペを実施した。さらに、リニューアル・オープンに向けた展開などの準備を順次進めている。



工事仮囲いの装飾シート

12 周年史の編纂

2016年秋のリニューアル・オープンに向けて、周年史の編纂を行っている。平成26年度は、1990年の一次開館から2014年9月まで、すべての展覧会および関連事業の実績データのとりまとめや、各展の掲載記事および資料の収集を行った。2015年5月に各担当が執筆原稿を入稿する予定である。